

Nittoグループのユニークさ

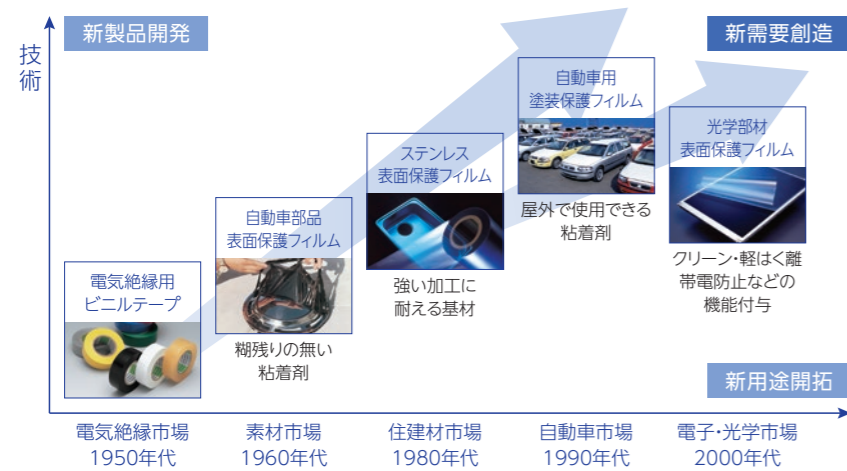
三新活動

新用途開拓と新製品開発に取り組むことで新しい需要を創造するNitto独自のマーケティング活動「三新活動」

既存製品の「新」しい用途を開拓して、そこに新たな技術を加える。もしくは新しい技術を用いて「新」製品を開発した上でその用途を広げる。こうして「新」しい需要を創出する。
—3つの「新」を重ねて進化し続けることが、50年以上にわたって繰り返されてきたNitto独自のマーケティング活動「三新活動」の原理です。



三新活動の展開例

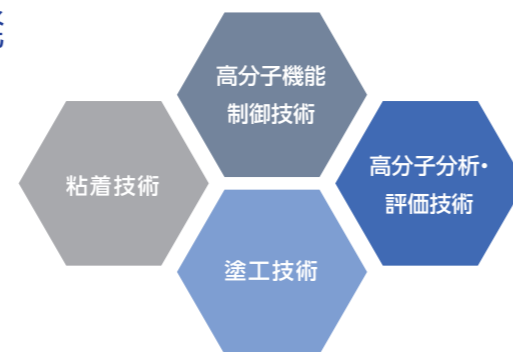


電気絶縁の用途に使われていたビニルテープという既存製品から、さまざまな新技術・新機能の開発と、新用途の開拓を繰り返し、電線メーカーから住宅、自動車といった新たな顧客・業界における需要を創造してきました。
このように、顧客に密着し、技・製・販が一体となって三新活動を推進することが、Nittoの「イノベーションのDNA」であり、成長エンジンのひとつです。

コア・テクノロジー

4つの基幹技術を組み合わせお客様のニーズに合った製品を開発

Nittoグループのコア・テクノロジーは、創業以来培われてきた高分子合成技術と加工技術、そこから生み出された粘着、塗工、高分子機能制御、高分子分析・評価技術であり、これらを複合・発展させ、自動車・他輸送機器、住宅・住宅設備、社会インフラ、素材、家電・電子機器、ディスプレイ、電子デバイス、医療、包装材料、消費財などの幅広い事業領域へと展開してきました。



ニッチトップ戦略

自社に優位性があるニッチ市場で独自の技術でトップシェアを目指す

成長(変化)するマーケットにおいて、グループ固有の技術を活かすことができ、かつ優位性を発揮できるニッチな分野へ経営資源を投下する、独自の集中・差別化戦略がニッチトップ戦略です。
グローバルシェアNo.1を目指すのがグローバルニッチトップ™戦略、各国・エリアの市場において、特有のニーズに応じた製品を投入してトップシェアを狙うのがエリアニッチトップ®戦略です。



グローバルニッチトップ™戦略の製品例

1 ディスプレイ用偏光フィルム (NPF®)



光学特性・信頼性・作業性に優れ、液晶ディスプレイ(LCD)や有機ELディスプレイ(OLED)などに対応する豊富な品ぞろえでお客様のニーズにお応えしています。

2 熱はく離シート (リパアルファ®)



常温では粘着力があり、加熱するだけで簡単にはがすことができるユニークな粘着シートです。電子部品の各種製造工程で自動化・省人化に大きく貢献しています。

3 HDDヘッド用薄膜金属回路基板 (CISFLEX®)



Nittoで開発された感光性ポリイミド技術をベースに、技術を複合させることで開発されました。微妙なバネ特性によって磁気ディスク上に磁気ヘッドを浮上させ、HDDに情報を読み書きさせる信号を伝送する重要な役割を担っています。

企業文化

価値観、心構え、行動基準を明文化した「The Nitto Way」

Nittoグループを支えてきた諸先輩の想い・知恵・価値観は、長い歴史の中で積み重ねられ、私たちの中でDNAとなって脈々と受け継がれています。
それを明文化したものが「The Nitto Way」です。
私たちの判断基準であり、心の拠り所となっています。



価値創造プロセス

社会におけるさまざまな問題をお客様と共にどのように解決するか。Nittoグループは「三新活動」と「ニッチトップ戦略」という独自のビジネスモデルによって、常に革新的で幅広い価値を創造し続けていきます。



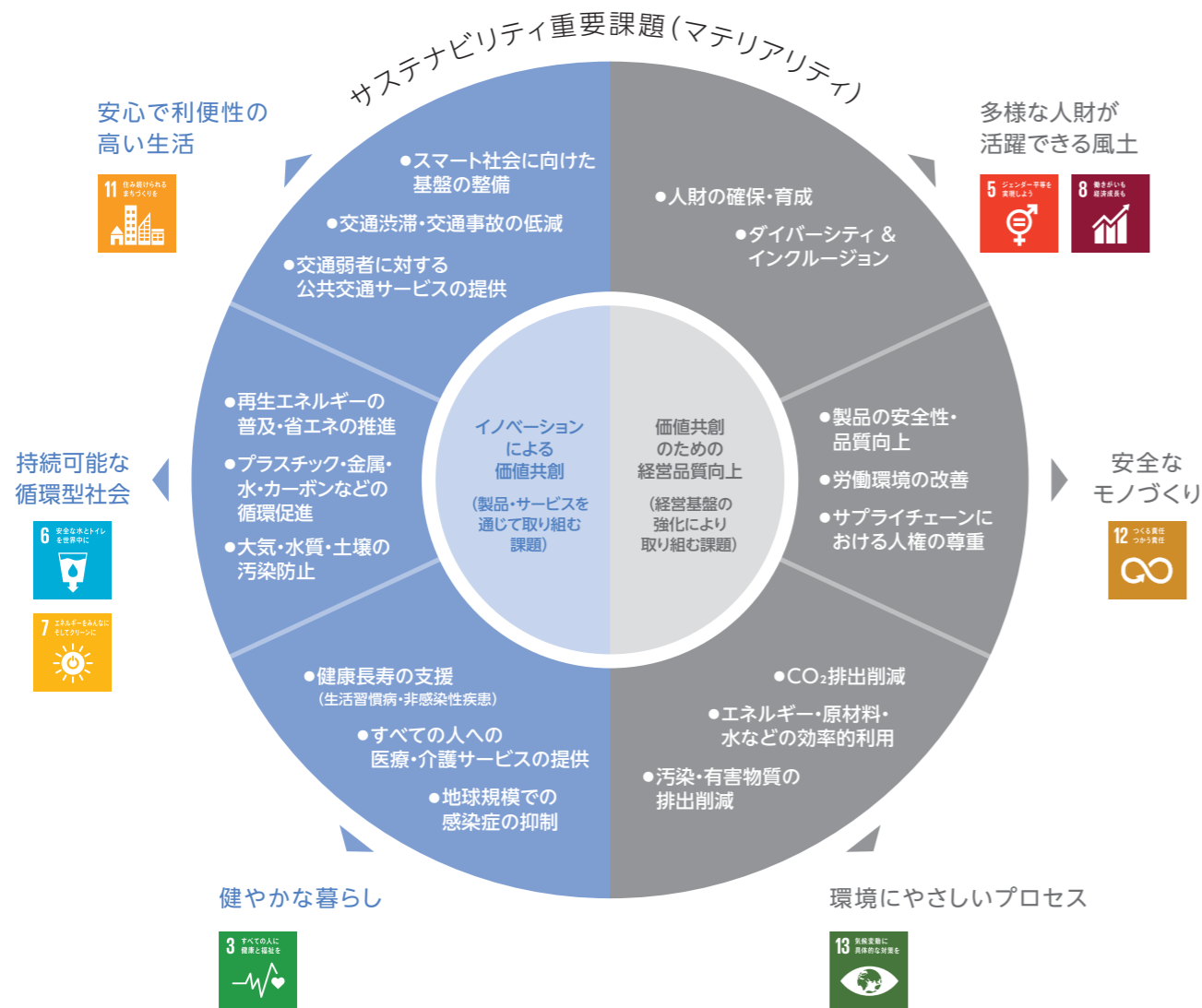
経営理念・企業文化

サステナビリティ重要課題 (マテリアリティ)への取組み

世界は、環境問題や人権問題をはじめさまざまな社会課題に直面しており、これらの難問を解決するために国際社会が努力を続けています。Nittoグループも社会課題解決と企業価値向上の両立に向けて、優先的に取り組むべき課題「サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)」を2019年に特定しました。

「サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)」には、

「イノベーションの創出」と「経営基盤の強化」の2つのアプローチにより取り組みます。従業員一人ひとりが当事者意識を持ってこれらの課題と向き合うために、まずは従業員への意識付けを行うべく周知活動を展開します。同時に、それぞれの課題解決に向けて綿密な計画を立て、全社横断的に必要な施策を講じていきます。



特定プロセス

イノベーションによる価値共創 (製品・サービスを通じて取り組む課題)

「社会課題解決と企業価値向上の両立」に向けた事業による直接的な取組み

step 1	社会課題のリスト化 (事業機会としての社会課題)	政府、学会、NPO、産業界のSDGsに関する代表的な文献から、社会的に重視されている課題を抽出し、リストを作成しました。さらに、自社の事業領域や方向性を勘案し、事業機会の観点で関連性のあるものを抽出しました。
step 2	重要性評価	ステップ1で抽出した社会課題一つひとつについて、10年のスパンで社会と自社それぞれにとっての重要性を評価しました。 社会にとっての重要性=社会課題の影響度がどのくらい深刻で急速に拡大しているか(市場としての成長性が高いか) 自社にとっての重要性=強みを活用した製品・サービスが提供できる可能性があるか
step 3	マテリアリティ作成	ステップ2で評価した結果のうち、「市場としての成長性が高く、自社が優位な地位を獲得しやすい社会課題」を、Nittoグループのサステナビリティ重要課題(マテリアリティ)として特定しました。

価値共創のための経営品質向上 (経営基盤の強化により取り組む課題)

「社会課題解決と企業価値向上の両立」の前提条件となる、ステークホルダーからの要請に対応する取組み

step 1	ステークホルダーからの要請項目のリスト化 (経済・環境・社会側面での要請項目)	グローバル・レポーティング・イニシアチブ(GRI)が発行している「GRIスタンダード」を使用してステークホルダーからの要請項目を抽出し、リストを作成しました。
step 2	重要性評価	ステップ1で抽出したステークホルダーからの要請一つひとつについて、10年のスパンで社会と自社それぞれにとっての重要性を評価しました。 社会にとっての重要性=要請するステークホルダーの幅広さ 自社にとっての重要性=自社への影響の大きさ・方針との整合性
step 3	マテリアリティ作成	ステップ2で評価した結果のうち、「幅広いステークホルダーから要請されており、自社への影響が大きな社会課題」を、Nittoグループのサステナビリティ重要課題(マテリアリティ)として特定しました。

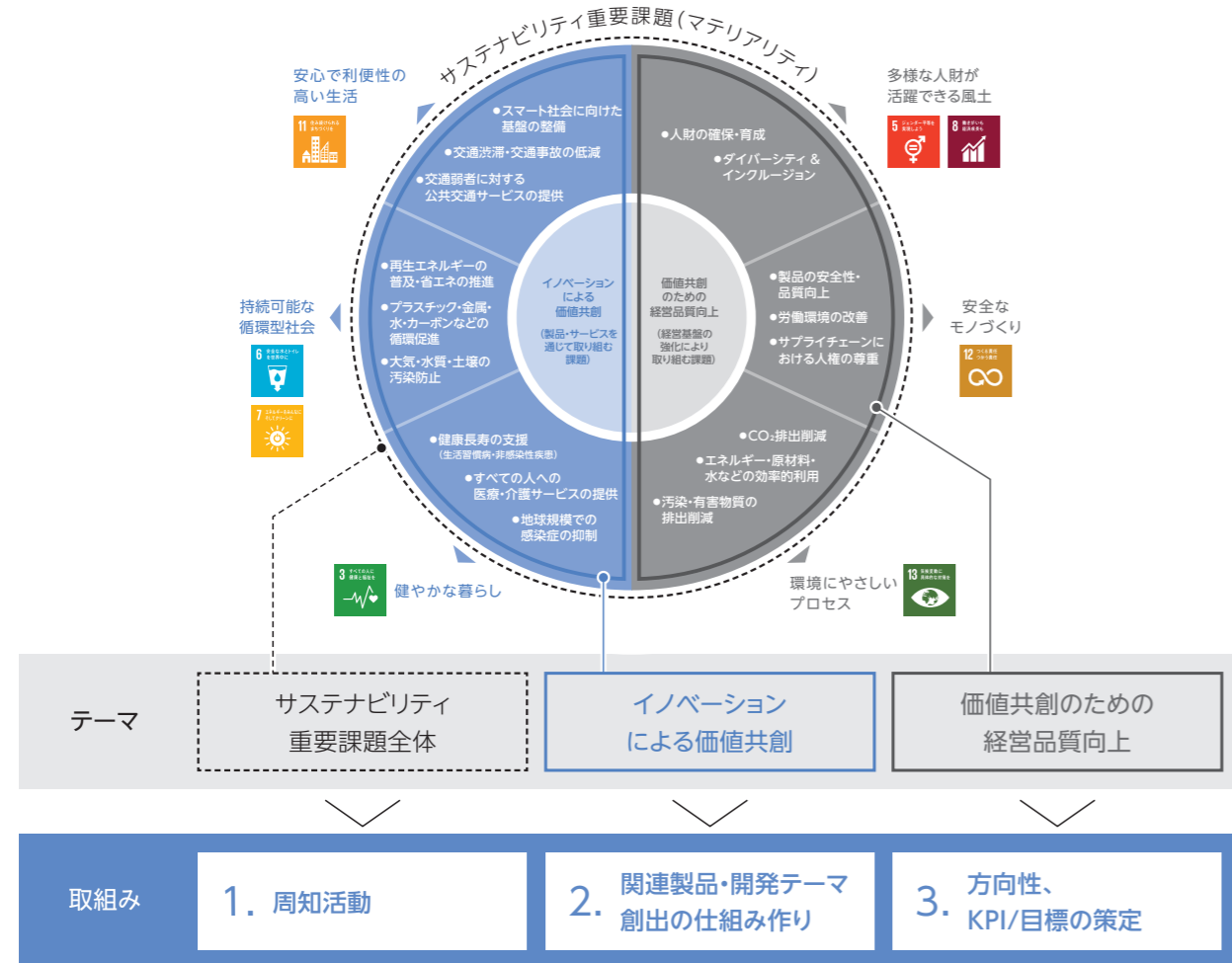
サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)への取組み

取組みに当たってのリスクと機会

	サステナビリティ重要課題 (マテリアリティ)	リスク	機会	Nittoグループが 目指すもの	該当する SDGs	
<p>世界が 直面する 社会課題</p> 	<p>イノベーションによる価値共創 (製品・サービスを通じて取り組む課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> スマート社会に向けた基盤の整備 交通渋滞・交通事故の低減 交通弱者に対する公共交通サービスの提供 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル機器における新たな代替技術の出現や自社技術のコモディティ化による、自社製品の優位性の低下 自社の製品などが交通システムの安全に重要な役割を果たすことに伴う責任の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> IoTやデジタル化の進展に伴う各種センサーや半導体、情報通信インフラなどに用いる関連部材・素材へのニーズ拡大 交通の円滑化や自動車の安全レベル向上に寄与する製品へのニーズ拡大 	<p>安心で利便性の高い生活</p>		
		<ul style="list-style-type: none"> 再生エネルギーの普及・省エネの推進 プラスチック・金属・水・カーボンなどの循環促進 大気・水質・土壌の汚染防止 	<ul style="list-style-type: none"> 化学製品・プラスチックなどへの環境規制強化による既存製品の販売困難化 環境に配慮した製品に対するニーズへの対応で、競合に後れを取ることに伴う、受注量の減少 有機溶剤不用品やバイオプラスチックへのシフトなどの環境対策において、市場や顧客の期待に追いつけない場合における、長期的な信頼の低下 		<ul style="list-style-type: none"> 気候変動・温暖化、水不足などの地球環境問題の深刻化による、さまざまな資源・素材を循環利用するための技術・製品へのニーズ拡大 大気・水質・土壌などにおける有害物質の分離・除去・浄化などに資する技術・製品へのニーズ拡大 	<p>持続可能な循環型社会</p>  
		<ul style="list-style-type: none"> 健康長寿の支援 (生活習慣病・非感染性疾患) すべての人への医療・介護サービスの提供 地球規模での感染症の抑制 	<ul style="list-style-type: none"> 核酸医薬を中心とした医薬品の開発期間の長期化や開発費用高騰に伴う、自社コストやリスクの拡大 アンメットメディカルニーズに対応できないことによる、競争優位性・成長性の低下 品質問題や副作用などによる患者の健康被害防止など、社会的責任の拡大 		<ul style="list-style-type: none"> 疾病の予兆把握や早期診断、高齢者の見守り・自立サポートといった、健康長寿実現への製品ニーズ拡大 在宅医療やセルフメディケーションも含め簡便に使用できる医薬品・医療材料や介護用品へのニーズ拡大 QOL向上や疾患拡大阻止への製品ニーズ拡大 	<p>健やかな暮らし</p> 
	<p>価値共創のための経営品質向上 (経営基盤の強化により取り組む課題)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人財の確保・育成 ダイバーシティ & インクルージョン 	<ul style="list-style-type: none"> 人財の確保・育成ができない場合における、担い手不足による安定的な事業活動の困難化 ダイバーシティが十分でない場合における、急激な事業環境の変化に対応できないことによる、競争力の低下 	<ul style="list-style-type: none"> 多様で優秀な人財からもたらされる新たなアイデアによる、イノベーションの創出と長期的な成長性の向上 	<p>多様な人財が活躍できる風土</p>	 
		<ul style="list-style-type: none"> 製品の安全性・品質向上 労働環境の改善 サプライチェーンにおける人権の尊重 	<ul style="list-style-type: none"> 品質問題や製品使用段階での健康への影響が生じることによる、リコール・訴訟などの発生 事業活動中の災害発生による、人的被害や操業停止 サプライチェーンにおける人権問題などの不祥事の発生による、顧客・社会・株主などからの企業評価の毀損 	<ul style="list-style-type: none"> 安全性の高い製品の提供による、顧客の安心感と強い支持の獲得を通じた、競争力の向上 		<p>安全なモノづくり</p> 
		<ul style="list-style-type: none"> CO₂排出削減 エネルギー・原材料・水などの効率的利用 汚染・有害物質の排出削減 	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷の高い原材料やエネルギーの使用を継続している場合における、規制強化に伴う操業停止 特定の原材料が世界的な消費量拡大により将来的に枯渇する場合における、原価上昇や調達困難になることによる操業停止 生産プロセスにおける大気汚染や有害物質の排出削減の遅れによる、法規制対応コストの増加や、操業ライセンスの取得困難化 	<ul style="list-style-type: none"> 環境効率の高いプロセスからもたらされる生産性向上や原価低減による、長期的な成長力や競争力の向上 		<p>環境にやさしいプロセス</p> 

サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)への取組み

計画と進捗



1. 周知活動

サステナビリティ重要課題に取り組むに当たり、従業員一人ひとりがこれを日々意識して活動していくことが必要となります。2020年度は、役職と求めるレベルに応じてeラーニングやワークショップなどを通じてグループ従業員への周知を図ります。

2020年度周知プログラム

対象	達成レベル	周知と理解	マインドセット	イノベーション創出	活動計画策定
一般		●			
係級および課級		●	●		
事業部選抜(若手中堅従業員)		●	●	●	
部級		●	●		●

2. 関連製品・開発テーマ創出の仕組みづくり

社会課題解決に資するような製品・サービス・技術の創出を加速させるために、周知によって従業員の意識を変え、同時に、貢献度合いを可視化することが重要だと考え、その認定制度の導入を目指しています。

このような仕組みをできるだけ早期に運用できるよう、現在、認定基準や審査体制などの構築を検討しています。

3. 方向性、KPI/目標の策定

経営基盤強化に向けた8つの重要課題のうち、一部の重要課題に対しては方針や目標を定め、さまざまな施策を実行しています。残りの重要課題についても、目標やアクションプランを策定し、進捗度合いを測るためKPIを設定するなど、準備を進めています。

目指すもの 多様な人財が活躍できる風土

サステナビリティ重要課題	KPI	アプローチ
人財の確保・育成	(一人当たり)教育研修時間	<ul style="list-style-type: none"> ・タレントマネジメント強化 ・教育・研修制度の充実
ダイバーシティ&インクルージョン	女性管理職比率	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティの推進 ・働き方改革の推進

目指すもの 安全なモノづくり

サステナビリティ重要課題	KPI	アプローチ
製品の安全性・品質向上	—	<ul style="list-style-type: none"> ・品質マネジメント強化 ・規程とシステムによる厳格な化学物質管理
労働環境の改善	重大・重要災害件数	<ul style="list-style-type: none"> ・「人・組織・設備」安全の追求
サプライチェーンにおける人権の尊重	—	<ul style="list-style-type: none"> ・CSR調達および ・ホワイト物流の推進

目指すもの 環境にやさしいプロセス

サステナビリティ重要課題	KPI	アプローチ
CO ₂ 排出量削減	CO ₂ 排出量	<ul style="list-style-type: none"> ・総エネルギー量の削減 ・再生可能エネルギーの活用 ・回収・再利用技術の開発
エネルギー・原材料・水などの効率的利用	廃棄物排出量	<ul style="list-style-type: none"> ・資源使用量の削減 ・資源の社内循環 ・廃棄物のリサイクル化
汚染・有害物質の排出削減	トルエン大気排出量	<ul style="list-style-type: none"> ・使用量の削減 ・全排出量の回収・再利用